第4章

# ふりかえってみて感じること

# 1．最も有意義な学校外学習

ここでは、小・中学校時代に経験した一般的な習い事、学習系習い事、体験学習のうちで、大学生になった今ふりかえってみて、最も有意義な影響を受けたと思うものについて聞いた結果をまとめた。

**◆最も有意義な影響を受けたのは、男子が運動系で、女子が音楽系**
**（表４－１、図４－１、２）**

最も有意義だったと思う一般的な習い事、学習系習い事、体験学習名を自由記述で書き込んでもらい、全体を表４－１のように７分野に分けた（複数回答）。分野別に最も有意義とする割合を高い順に見てみると、「音楽系」30.8％が最も高く、次いで「運動系」25.7％、「学習系」22.9％、「習字・そろばん系」17.4％、「英語系」7.5％、「体験系」6.8％の順であった。

男女別で差が大きいのは、運動系と音楽系で、運動系では、男子42.2％、女子19.4％で男子の方が22.8ポイント高く、反対に音楽系では、男子9.6％、女子39.1％で女子の方が29.5ポイント高い。

種目別に見てみると、１位「楽器」28.9％（音楽系）、２位「進学塾」13.0％（学習系）、３位「習字」12.4％（習字・そろばん系）、４位「スイミングスクール」11.5％（運動系）だった。

男子が有意義と評価するのは、スイミングスクールなどの運動系と進学塾などの学習系で、女子の場合は楽器などの音楽系と、傾向がはっきりと分かれている。

**表４－１　学校外学習の分類**

| 分野名 | 種目名 |
|---|---|
| 英語系 | 英会話などの語学教室や個人レッスン、その他 |
| 学習系 | 計算・かきとりなどのプリント教材教室、家庭教師、受験のための塾（進学塾）、補習塾、その他 |
| 運動系 | スイミングスクール、剣道、柔道、テニス、野球、サッカー、スポーツクラブ・体操教室、バレエ、リトミック、地域のスポーツチーム、その他 |
| 音楽系 | 楽器、幼児向けの音楽教室、その他 |
| 習字・そろばん系 | 習字、そろばん |
| 体験系 | 市区町村などが主催するキャンプ、児童館・公民館などが主催するキャンプ・お泊まり会、ホームステイ、海外留学、ボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーで行う野外活動、海洋少年団などの団体が主催するイベント、ボランティア活動、その他 |
| その他 | お絵かきや造形教室、児童館など公共施設での自治体主催の教室・サークル、受験が目的ではない幼児教室やプレイルーム、その他 |



**◆精神的な満足感は、有意義な評価につながりやすい（図４－３、４）**

どのような影響を受けると、最も有意義であるという評価につながるのか、具体的な影響の内容について調べた。選択肢は、精神的な満足につながるもの、人間関係の充実、具体的な目標達成、対費用効果などを盛り込み、４段階評価で答えてもらった。

全体的に見ると、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせて８割以上だった項目は、「何かを成し遂げる達成感を知った」87.0％、「何かが具体的にできるようになった」84.6％、「何かを楽しむことを知った」82.3％、「何かに一生懸命になる体験をした」81.7％、「自分のいいところを見つけた」80.5％であった。

逆に４割以下となったのは、「志望校合格に役立った」38.5％、「今の勉強につながっている」36.9％、「体力がついた・健康になった」35.5％、「親と一緒に取り組めた」26.8％であった。

数値の高い項目では、達成感の獲得や、何かを楽しんだり一生懸命やった体験など、精神的な満足感につながっているものが多い。一方、低い項目では、「体力がついた」や「志望校合格」など、精神的満足ではなく、目的が個別的で明確なものが多い。

なお、人間関係に関する項目（「仲の良い友だちができた」「人づきあいの範囲が広がった」など）は、いずれも５割から６割程度で、特に目立った項目は見られなかった。

男女差を見ると、男子の方が10ポイント以上高いものは、「体力がついた」のみで、男子50.6％、女子29.7％と、20.9ポイントの差があった。女子の方が10ポイント以上高いものは、「音感・創造力・表現力などがついた」（29.7ポイントの差）、「今の趣味・サークル活動などにつながっている」（15.6ポイントの差）、「人生の自信になっている」（12.2ポイントの差）、「何かを楽しむことを知った」（11.2ポイントの差）、「先生の生き方や人間的な魅力に触れた」（11.0ポイントの差）であった。男子よりも、女子の方が肯定的な評価をしている項目が圧倒的に多いのが特徴である。

**図４－１　最も有意義だった学校外学習（複数回答）**

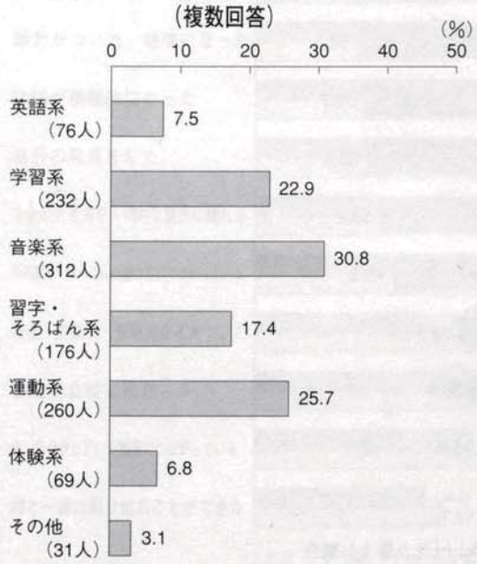
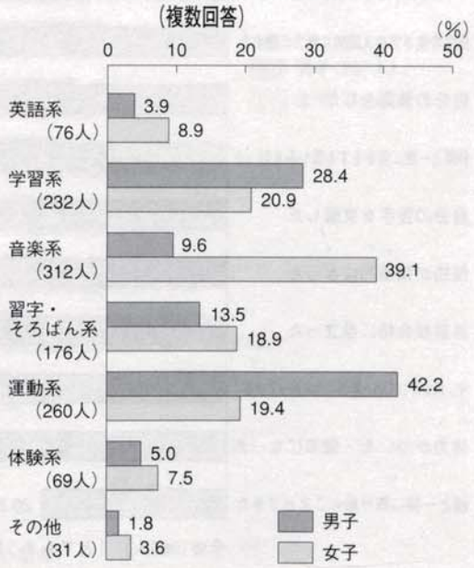
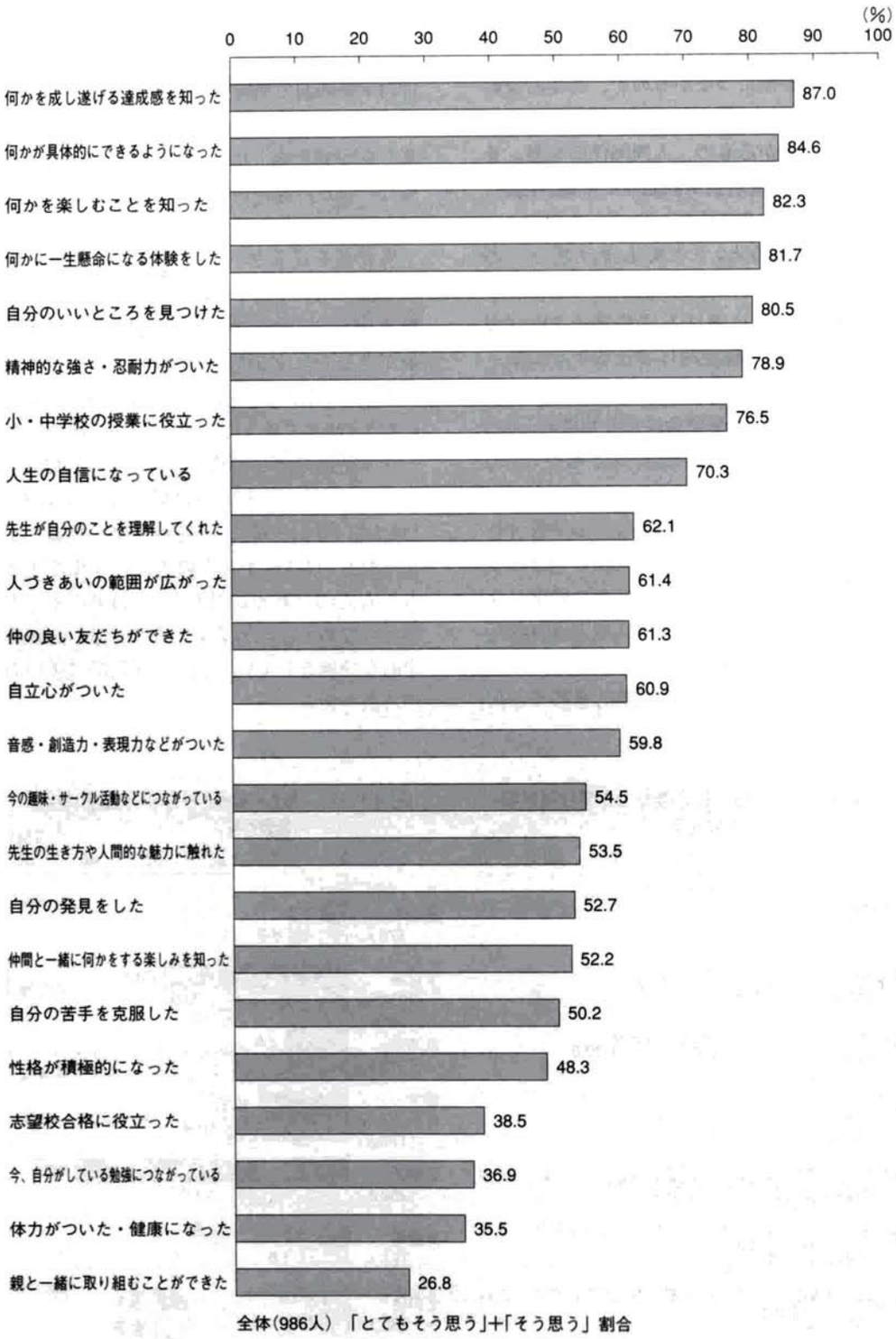



**図４－２　最も有意義だった学校外学習（性別）（複数回答）**



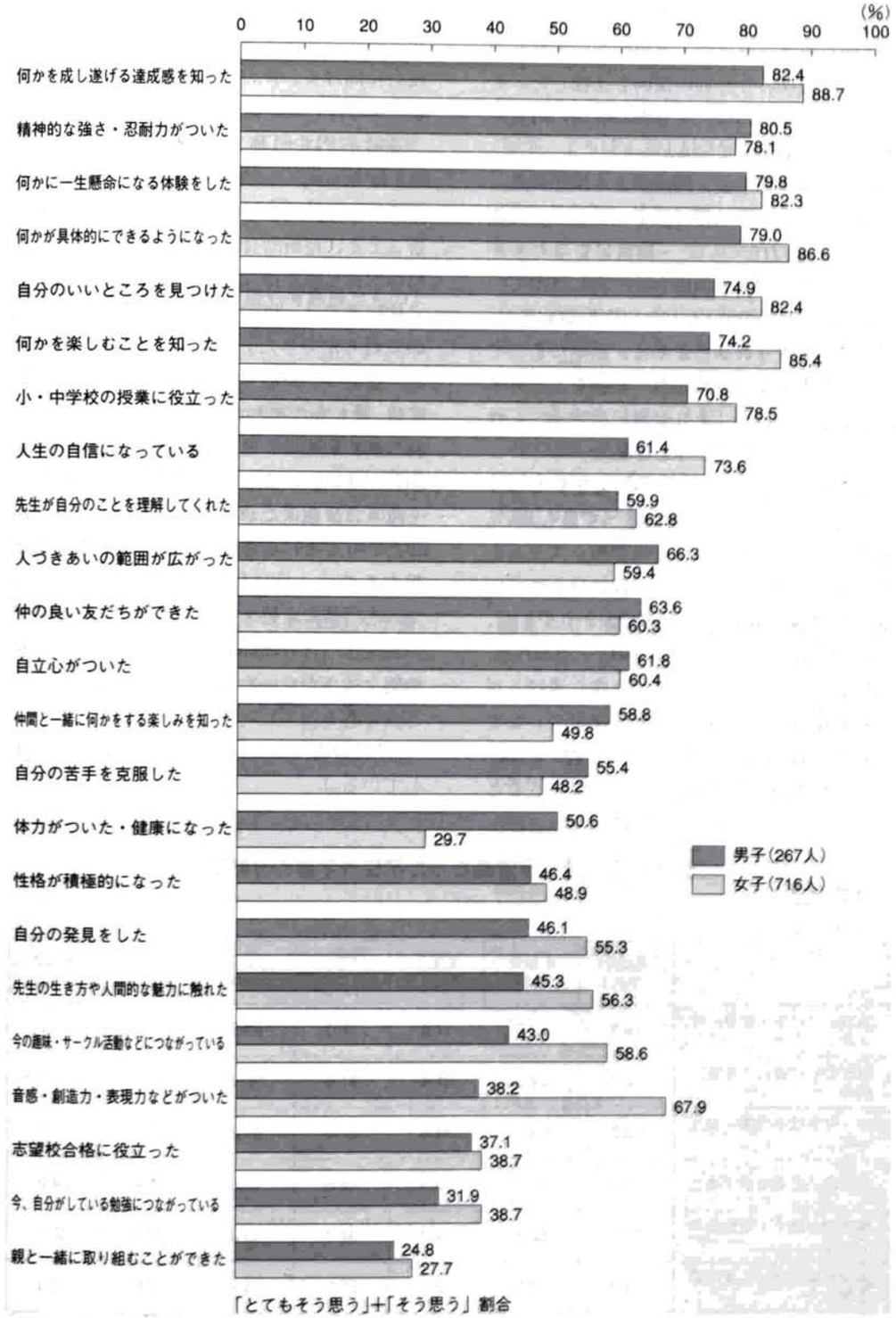
## 図４－３　最も有意義だった学校外学習の影響




全体(986人)　「とてもそう思う」+「そう思う」割合



## 図４－４　最も有意義だった学校外学習の影響(性別)




「とてもそう思う」+「そう思う」割合

### ◆分野別の有意義な影響（表４－２）

前述した７分野に分けて、有意義な影響の具体的な内容を調べた。選択肢から主なものを６項目選び、分野別の傾向を比較した。それぞれの分野ごとに、有意義な評価の内容が異なり、特徴が出ている。

英語系と学習系は、傾向がよく似ている。どちらも「小・中学校の授業に役立つ」数値が高く、「体力がついた・健康になった」が低い。また、学習系の場合は、表には出ていないが、「自信がついた」という数値も高い。調査後のヒアリングによると、通塾によって学校での成績順位や通知票の数値などに具体的成果があらわれ、それが自己肯定感にもつながるといった影響がうかがえた。

習字・そろばん系では、「何かを成し遂げる達成感を知った」が他に比べて最も高い。習字・そろばん教室の多くは昇級システムを取り入れており、細かく級・段に分かれているため、進歩が目に見える形でわかりやすく、達成感が得られやすいのではないかと思われる。

音楽系で高いのは、「何かを成し遂げる達成感を知った」「学校の授業に役立つ」などである。Q14「いい思い出」のフリーアンサーでたずねたところ、「ピアノができると合唱コンクールなどの伴奏に選ばれる機会が多くなる」「音楽の授業で周りよりもよく演奏ができる」など、学校で活躍する場がもてたということだった。また、年１～２回の発表会に向けて、「一生懸命練習した」ことも多く挙げられていた。

運動系では、「体力がついた・健康になった」が最も高く、次いで「達成感を知った」が高い。運動系では、音楽系と同様に、楽しむことと、技術的な向上が挙げられ、さらに精神的満足感を得られているとしている。

体験系では、他の分野に比較して「仲の良い友だちができた」が最も高く、「学校の授業に役立つ」が最も低い。体験系の特徴としては、最も有意義とする割合は非常に低いが、得られた影響は、他の分野よりも数値の高い項目が多い。つまり、体験系を最も有意義とした人は少数派だが、その満足感は非常に高いということになる。さらに、他の習い事と異なるのは、目に見える効果（授業で役立つ・志望校に合格するなど）ではない部分での満足感（自分のいいところを見つけた・精神的な強さがついたなど）の評価が高いという点である。

（７分野のうち、「その他」は分析からはずしている。）

**表４－２　最も有意義だった学校外学習の分野別**

（%）

| | 英語系（76人） | 学習系（232人） | 音楽系（312人） | 習字・そろばん系（176人） | 運動系（260人） | 体験系（69人） | その他（31人） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 体力がついた・健康になった | 14.5 | 22.6 | 17.0 | 17.0 | 93.5 | 60.9 | 25.9 |
| 自分のいいところを見つけた | 82.9 | 81.5 | 81.4 | 81.8 | 80.0 | 82.6 | 93.6 |
| 小・中学校の授業に役立った | 98.7 | 94.8 | 84.6 | 77.3 | 66.2 | 26.1 | 51.6 |
| 仲の良い友だちができた | 57.9 | 72.0 | 46.8 | 64.8 | 73.5 | 75.4 | 54.9 |
| 精神的な強さ・忍耐力がついた | 59.2 | 82.8 | 74.0 | 84.7 | 83.8 | 88.4 | 58.1 |
| 何かを成し遂げる達成感を知った | 71.0 | 85.3 | 89.7 | 92.0 | 85.8 | 87.0 | 90.4 |

「とてもそう思う」+「そう思う」割合